



◆伊良湖集落移転記念碑（新碑：写真左前、旧碑：写真右）
平成 17 年（2005）、伊良湖村の移転 100 周年を記念した碑が、伊良湖自治会により建てられました（写真左前）。



◆伊良湖射場からの大砲試射の弾道図（イメージ）

伊良湖村

は、伊良湖射場の用地拡大に伴い、明治 39 年（1906）、全村移転をしました。その移転の背景を振り返ってみましょう。

伊良湖村の強制移転

明治 38 年（1905）の伊良湖集落は、114 戸、人口 729 人で、半農半漁の暮らしをしていました。集落の場所は、現在の伊良湖シーパーク&スパから伊良湖シーサイドゴルフ倶楽部の周辺にありました。その年の 9 月、陸軍から伊良湖の

土地を収用するという通知が届きます。これは、伊良湖射場の拡大に伴う用地買収によるもので、半年以内に集落全ての家を移転するようとの命令でした。

伊良湖集落の方たちは、現在の伊良湖集落までレールを敷き、トラックで荷物を運び始めます。そして、明治 39 年（1906）3 月には、集落の全ての家の移転を完了しました。伊良湖神社も例外ではなく、このとき、宮山の中腹から現在地に移転されました。今では、信じられないような話ですが、軍の力は絶大だったのです。

伊良湖射場の関連施設

伊良湖射場の関連施設で、現在でも残っているものは 32 所あります。その多くは、射場の中心部だった小中山町に残っていますが、観測所は、日出町や古田町などにもありました。外浜観測所（日出町）や福江観測所（古田町）はレンガ造りで、遠距離射撃の際に、砲弾を観測する施設でした。

これらの施設を、歴史の学習で活用しようという地域も出てきています。

なぜ波打ち際に建てられたのか？ 伊良湖岬灯台の建設秘話

昭和 4 年（1929）に建設された伊良湖岬灯台。このように、波打ち際に建つ灯台は全国的にも珍しく、建設には伊良湖射場が深く関わっています。伊良湖射場からの砲弾は、三重県鳥羽市の神島方面に向かって試射され、神島観測所などから着弾点が観測されていました。当初は、小高い古山の上に建てられる予定だった伊良湖岬灯台ですが、ちょうど伊良湖射場からの砲弾の射線上にあたるため、建てるができなかったといわれています。

今では、観光名所となっている白亜の伊良湖岬灯台ですが、戦争にまつわる建設秘話があったのです。



●神島観測所（鳥羽市神島）



●伊良湖岬灯台



◆福江観測所

古田町の標高約 40 m の丘にあり、レンガ造平屋建、北側は展望台でした。



◆外浜観測所

日出町の太平洋に面した海岸の岩礁上にあり、レンガ造平屋建でした。